

2-3

演題	概念を崩して業務効率を上げる
副題	～業務改善委員会の取り組みを紹介します～

業務改善
作業効率向上

法人名	社会福祉法人 若竹大寿会
施設名	わかたけ鶴見

発表者名 (職種)	松浦 望美 介護職員	都道府県	神奈川県
共同発表者		住所	横浜市鶴見区矢向 1-4-20
共同発表者		TEL	045-642-0075
共同発表者		FAX	045-583-6616
共同発表者		メールアドレス	wakataketsurumi@wakatake.or.jp
共同発表者		URL	

今回の発表施設 またはサービスの 概要	横浜市鶴見区に2013年に開所した介護老人福祉施設です(定員は100名、ショートステイ20名のユニット型施設)。 「職員一丸となって人を幸せにします」「人が大切にされる世の中を創ります」という法人理念のもと、日々の介護に努めています。
---------------------------	--

研究の目的、PR ポイント

今後ますます超高齢化社会が加速していく中、少ない人員でも効率的に業務を行いご利用者様の生活が安心、安全に行われるように日々の業務や仕組みを見直してきた内容を発表致します。

取り組んだ課題

従来の人員配置で行っていたユニットケアの業務内容を少ない人員配置で継続するには職員個々への業務負荷が高くなっている現状があり、以下の二点に着目し業務改善を行った。

- ① 夜勤職員の朝の業務負担(一人で離床対応、排泄介助、朝食準備)と多岐にわたる。
- ② 各居室トイレから、排泄物品がある倉庫までの移動距離が長く負担になっている。

具体的な取り組み

- ① 食事を委託している業者と相談し厨房で可能な事とフロアで可能な事を相談、すり合わせを行う。ハード面やコスト面様々な観点から実現可能な事を模索し朝食の配膳方法の変更に至る。
- ② 排泄ケアに掛かるムダの削減。
パット倉庫から物品を持ち出しやすくする為の5Sを行う。必要物品を選定し各居室にパット類を入れる箱を設置、衛生面に考慮しながら設置した。

活動の成果と評価

- ① 朝食を食器ではなく弁当箱での配膳に変更。
配膳時間の削減に繋がり、職員の負担軽減になった。主菜、温菜、冷菜が一つの箱に入っているので誤配膳の抑止。お弁当箱になりゴミが削減。
- ② 各居室に排泄物品をセットすることで倉庫まで取りに行く手間がなくなった。
単純に移動距離がなくなり負担軽減。ご利用者様を待たせる事がなくなり転倒、転落を抑止出来る。職員のストレス軽減につながり利用者様へ向き合う時間が増える。

今後の課題

- ・現在の弁当箱も数年後に廃盤になる可能性もあるので維持、管理しながら新たな弁当箱の購入も視野に入れておく。
- ・業務改善、効率向上は今後も課題となる事であり引き続き作業導線の見直しや現状では、当たり前と思っていることを見直し改善策を考える。